

博覧古今源氏 十八

特 別
A13
4274
18





如世 繁 種彦 作

十八編上

鶴屋板

113
4274
18
-

91-2349

天保丙申

柳亭種彦作

第十八編上冊

倭紫田舎源氏

仙鶴堂壽梓

歌川國貞画

孟春發行

田舎源氏第十八編叙

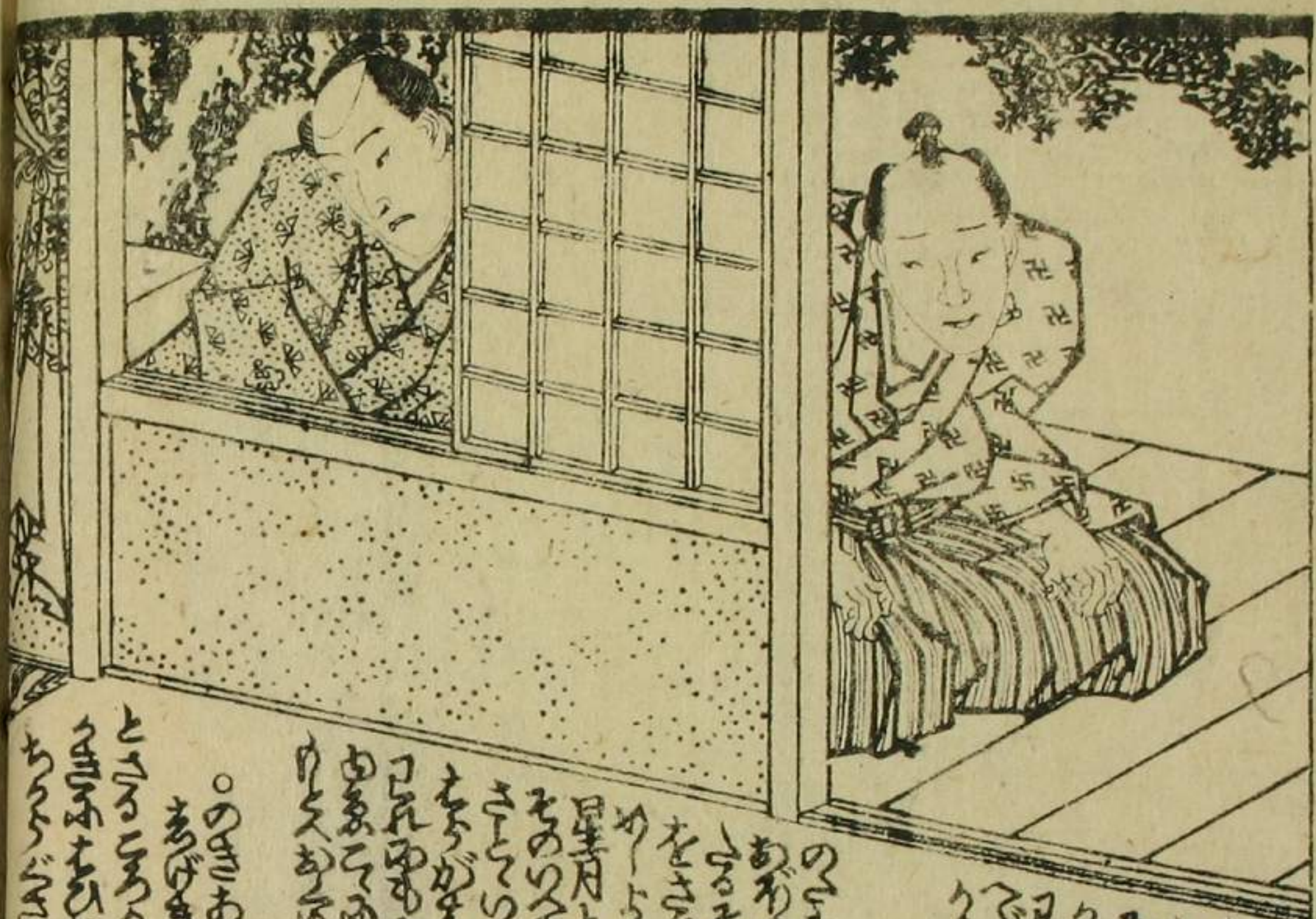
猿猴の自由の長物語をよむぬ湖の月とありと山
 の橋本ふ彫刻夏十八編賣出せの申の春孫彦
 玄孫ふおろるる宇治十帖のまゝをいれ従事端の
 系圖の混乱書より難く思へども三問堂の佛より
 御見履の光りよのそ三万三千三百丁續るはりて
 初年より今まが和と持八年是も猿の縁のひら
 當ふといふ草紙の吉瑞秘んで投し蟹の甲這こころ
 程といふ須磨より明石の巻よとらわり

天保丙申孟春

柳亭種彦記







Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or transcription of dialogue.



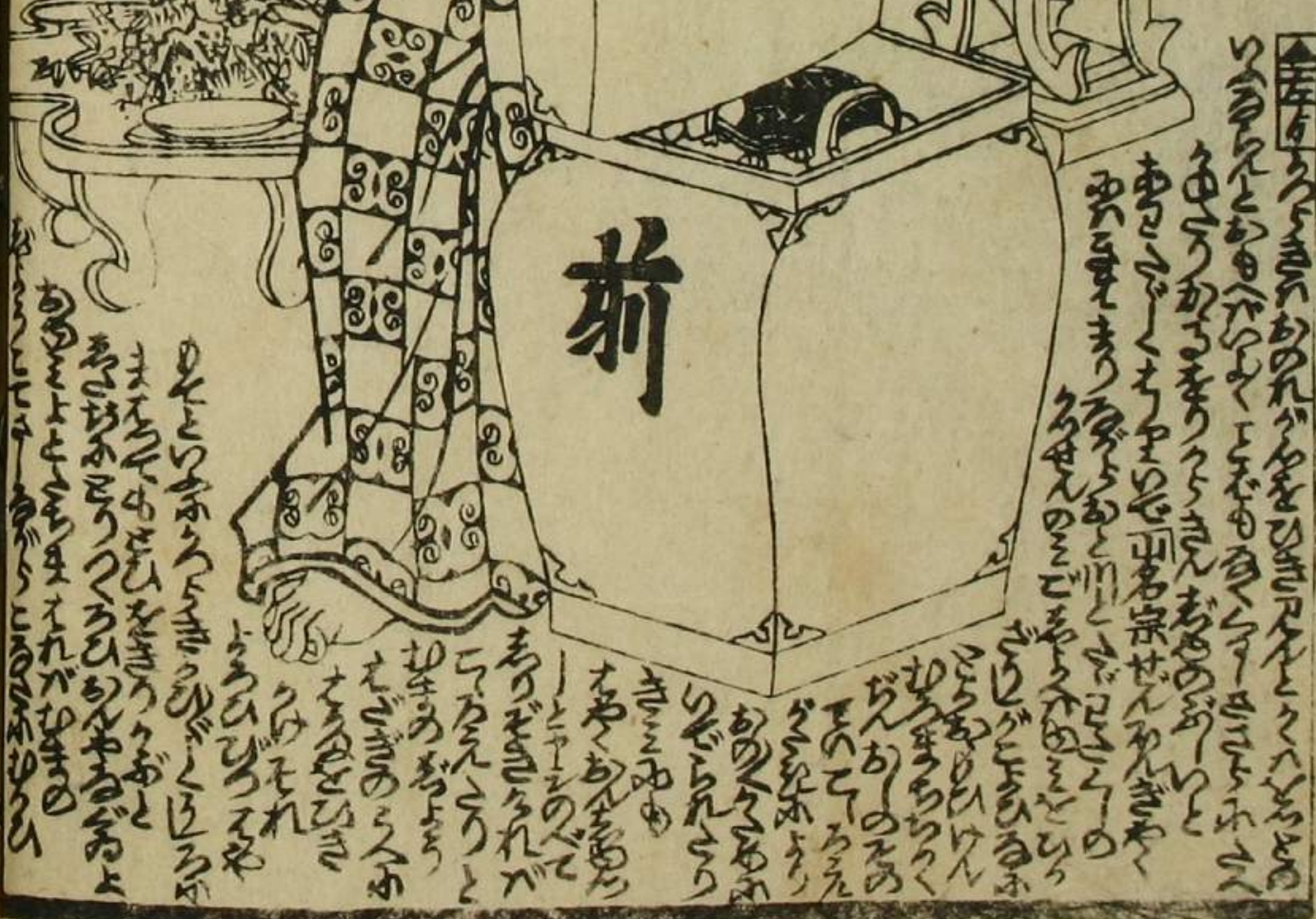
Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the commentary or dialogue.



Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the main illustration.

あはれ申すに... 源氏物語の一場面を記述する漢文の本文。人物の心情や行動を詳細に描写している。

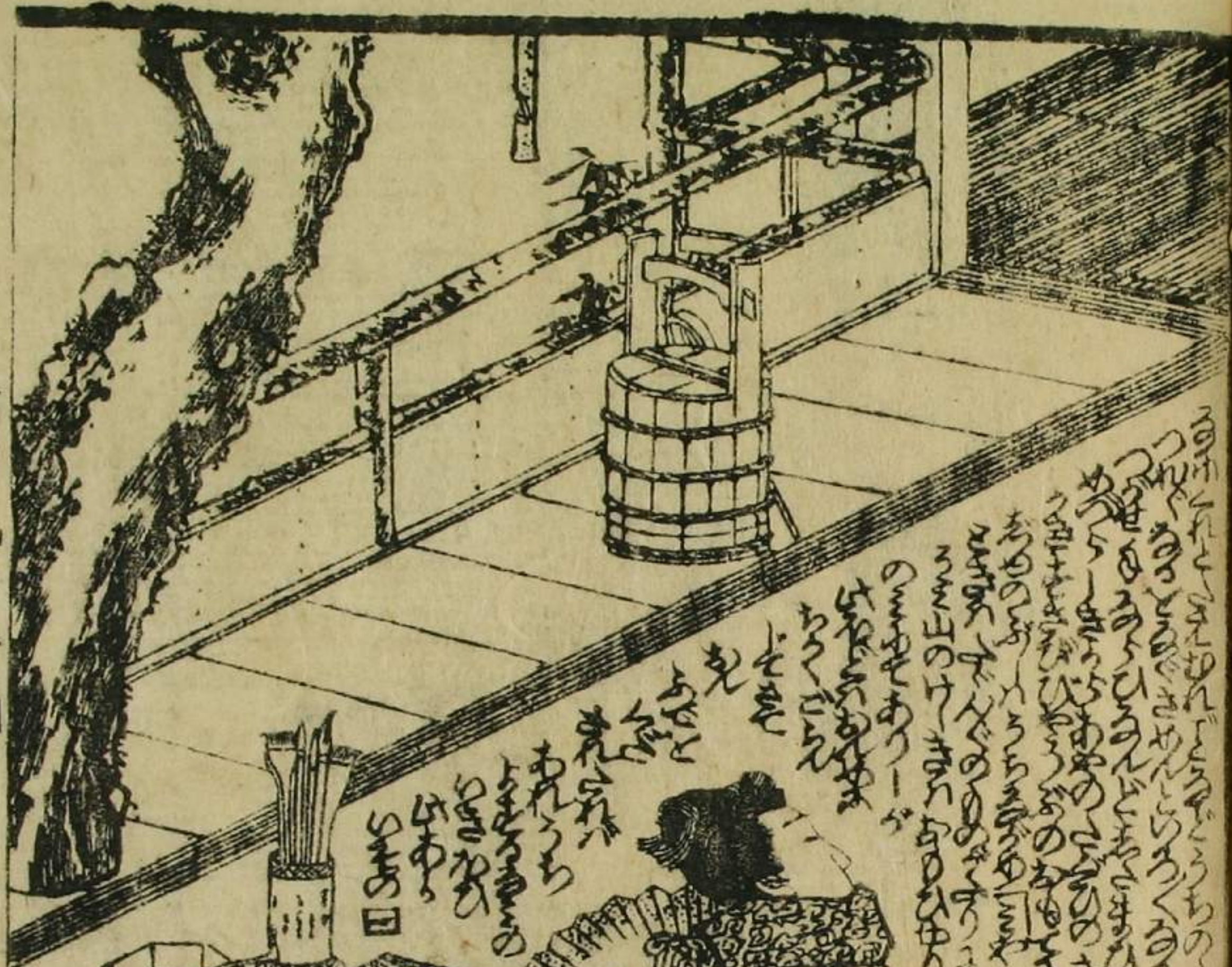
あはれ申すに... 漢文の本文の下部に記述されている内容。物語の進行や登場人物の対話を補足している。



あはれ申すに... 漢文の本文の上部に記述されている内容。物語の背景や登場人物の心情を描写している。

あはれ申すに... 漢文の本文の下部に記述されている内容。物語の進行や登場人物の対話を補足している。





源氏物語の一場面を描いた挿絵。右側に「源氏物語」の文字が縦書きで記されている。また、挿絵の周囲には物語の情景を説明すると思われる注釈や補綴が記されている。



源氏物語の一場面を描いた挿絵。右側に「源氏物語」の文字が縦書きで記されている。また、挿絵の周囲には物語の情景を説明すると思われる注釈や補綴が記されている。

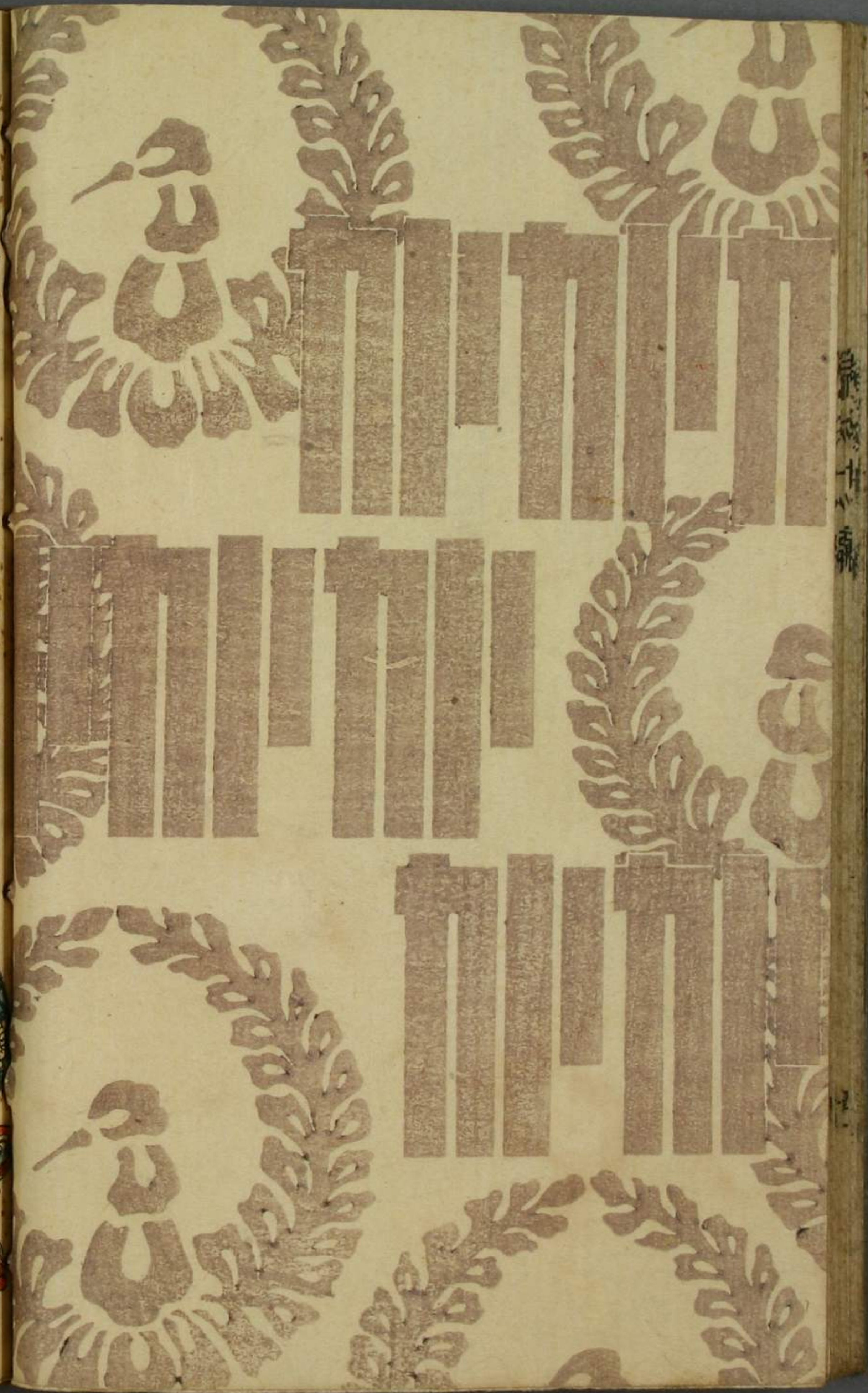
國貞圖

田舎

源氏



下編八十



上から
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



原氏十八編

つぎこれ吉やけしきやとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと

あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと



あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと



あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと



あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと
あつちのうらふらふとていふとあらんと



まかりりて母と母とのめがかり
 うさぎのうさぎのこころのこころ
 まかりりて母と母とのめがかり
 うさぎのうさぎのこころのこころ
 まかりりて母と母とのめがかり
 うさぎのうさぎのこころのこころ



まかりりて母と母とのめがかり
 うさぎのうさぎのこころのこころ
 まかりりて母と母とのめがかり
 うさぎのうさぎのこころのこころ
 まかりりて母と母とのめがかり
 うさぎのうさぎのこころのこころ

百七十八編

山崎のいづれ
 ○羨艶仙女水白
 ○羨去衣香 右取雨と水のり
 精霊伴乃をらすす作用の本希希
 赤橋南はらす町子目 坂去年氏

柳亭種彦作歌川國貞画



浄書 千形 道友

此の巻は、柳亭種彦の筆による歌集の浄書本である。千形道友が書写したものである。巻の初めに、種彦の自序があり、その中で、この巻が、彼の歌集の中でも、最も好きな巻であると述べている。また、巻の終わりに、種彦の跋があり、この巻の完成に、多くの友人の協力があったと述べている。

巻の内容は、種彦の歌集の中でも、最も好きな巻である。巻の初めに、種彦の自序があり、その中で、この巻が、彼の歌集の中でも、最も好きな巻であると述べている。また、巻の終わりに、種彦の跋があり、この巻の完成に、多くの友人の協力があったと述べている。

天保七年申春新彫

琴声女房形氣 全四冊

歌川國貞画

鳥勘左衛門忠義傳 全四冊

歌川國貞画

森林羅萬象の意氣 全四冊

歌川國貞画

縮葉山操の松枝 全四冊

歌川國貞画

浮波さざり 八冊

歌川貞秀画

國字水滸傳 十四編 四冊

歌川國貞画

柳亭種彦作

笠亭仙果譯

尚か不の葉おろしの
 羨艶仙女香甲八羽
 黒油羨雲香甲八羽

土橋信房
 三丁目西側
 坂本氏利長
 板橋
 橋本在石橋つ



書物錦繪 江戸通油町
 團扇地紙 問屋鶴屋吉右衛門

